旭混声合唱団広報 No.151
2008・11・.15 発行
平成 20 年 11 月号

楽楽

広報担当：伊東
http://www.asahikonsei.com/

☆練習スケジュール

月/日		会場	時間	備考
11月	22日（土）	旭丘公民館	19:00～21:00	
	29日（土）	〃	〃	
12月	6日（土）	〃	〃	
	13日（土）	〃	〃	
	~~20日（土）~~	~~〃~~	~~〃~~	
	20日（土）	長久手リニモ活性化事業に出演		詳細後日
1月	10日（土）	中央公民館	17:00～19:00	終了後新年会
	17日（土）	旭丘公民館	19:00～21:00	
	24日（土）	〃	〃	
	31日（土）	〃	〃	
2月	7日（土）	〃	〃	
	14日（土）	〃	〃	
	21日（土）	〃	〃	
	28日（土）	〃	〃	

☆今年もやります新年会

2009年　新年会のお知らせ

レクリエーション係

毎年恒例の新年会のご案内です。詳細は直前にご連絡することになると思いますが、とりあえず予定をお知らせいたします。

と　き　：　2009年1月10日（土）　19時～21時

ところ　：　尾張旭市中央公民館3階第4研修室（演奏会の打上げ会場と同じ）

会　費　：　￥4000（予定）

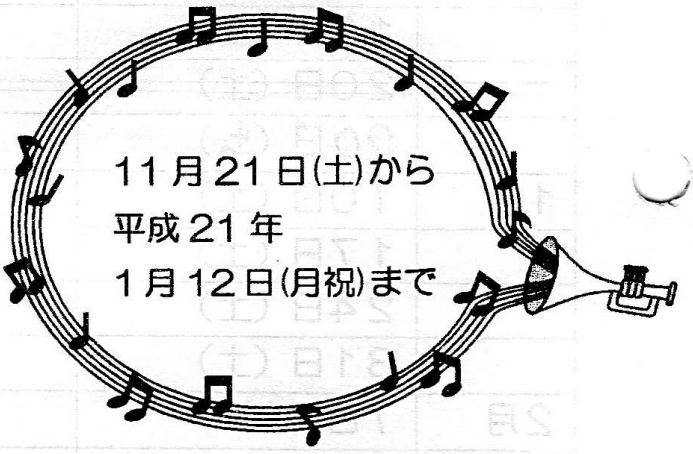
※当日は初練習を5時から中央公民館の別室で行い、練習終了後、上記会場に移動します。
※一芸をご披露してくださる方は、後日配布します「余興しますカード」をレク係まで提出してください。

【イベント情報】

クリスマスが近づきいろいろなイベントが企画されていますね。
今回は旭混声も参加を予定しているリニモ活性化のイベントを紹介します。

☆ この冬 図書館通りに イルミネーションやイベントがいっぱい！ ☆

このイベントは、リニモ活性化事業第2弾として
図書館通り（長久手町）をイルミネーションで
飾りつけるとともに沿線で多彩なイベントを行い
にぎわいをつくり出し、リニモの活性化と
沿線地域をはじめとする町の活性化を
目指すものです。



イベントの主な内容

①11月22日（土） 夕方からオープニングイベント
リニモ「はなみずき通駅」前のはなみずき広場で、日本初
ベルギー製イルミネーション「スノーフォール」の点灯式

②地元音楽家たちが神出鬼没のコンサートを実施

③イルミネーションの演出効果を高める道具として特殊なメガネ
「Love Naviグラス」を配布

④「Love Naviグラス」を持って沿線のお店に行こう！
イベント協力店にこのグラスを持って行くとすてきな特典が！

旭混声の歌声もこのイベントのひとコマとなります。
たくさんの人達と楽しい時間を過ごせるといいですね (*^_^*)

もうひとつ クリスマスのイベントの紹介です

◎瀬戸メサイア合唱団 第10回クリスマスチャリティコンサート

日 時：2008年12月21日（日） 午後1時30分開演（開場午後1時）
場 所：瀬戸市文化センター 文化ホール
入場料：無料 整理券要

【音楽豆辞典】　～広報No.149号（9月号）のつづき～

《良寛相聞》における「蓮の露（はちすつゆ）」について
～第4曲（相聞Ⅱ／夢の世に）に関することから～

「蓮の露」（貞心尼自筆の歌集）の構成は、序文で良寛の略伝等が記され、本文では、良寛歌集、及び良寛・貞心唱和の歌と続き、この後には、不求庵のこと、山田静里翁のこと、良寛禅師戒語、「蓮の露」の命名のことなどが、すべて貞心尼の筆によって書かれている。（50丁・100ページの冊子本）

唱和の歌は、二人が出会ってから別れるまでの４年余りが、あたかも物語のように綴られていて、清く美しい愛のドラマと見ることもできる。「良寛禅師と聞えしは・・・」から始まる序文部分は、１頁から７頁までつづく。良寛の略伝と本書を編むにいたった動機等が記されている。

９頁から８３頁が本文で歌数は長歌・施頭歌・短歌あわせて１５１首と、良寛禅師が臨終に近い頃口ずさんだ俳句１首、良寛自作の俳句８首、そして良寛貞心合作の短歌１首等がおさめられている。

※以下については、合唱曲集巻末の（歌詞）－（大意）を参照してご覧ください。

「師つねに、手まりを、もてあそび給う、と、ききて奉るとて、貞心尼」
「これぞこの、仏の道に、あそびつつ
つくやつきせぬ、みのりなるらん」

これは、貞心尼が、島崎の良寛禅師にはじめて送った歌と言われている。

するとさっそく、良寛禅師からお返しの歌が届く。

「つきてみよ、ひふみよいむなや、ここのとお
とおとおさめて、またはじまるを」

この歌が届いた時、貞心尼はどんなにうれしかったことであろう。

唱和の歌はこの贈答歌から始まり、初対面のシーン、良寛から訪問の催促へと急速に展開する。「つきてみよ・・・」と返歌を受けた貞心尼は、早速島崎の良寛禅師のもとへ参ずる。

「はじめて、あい見奉りて」
「きみにかく、あいみることの、うれしさも
まださめやらぬ、夢かとぞおもう」

「良寛様にお会いしていることは、夢ではないかしら」と の心のうちをうちあける。

良寛禅師の返歌

「ゆめの世に、かつまどろみて、夢をまた
かたるも夢も、それがまにまに」

良寛禅師７０歳、貞心尼３０歳の時のことである。

良寛禅師と貞心尼は、歌を通して急速に心の通い合いが深まってゆく。そして、良寛歌で次のような絶唱を生む。

「いついつと、まちにし人は、きたりけり
いまはあいみて、何か思わん」

そして良寛禅師との最後の別れを迎えることになる。

「うらをみせ、おもてを見せて、ちるもみじ」

本文最後に良寛禅師のなくなった日が記されている。

「天保２年、卯年正月六日遷化よわい７４」貞心尼３４歳の時のことである。

「蓮の露」が完成したのは、序文の最後の記録に「天保６年５月１日」とあるため、良寛没後４年目、貞心尼３８歳の時ということになる。

＜原文を一部省略しました。＞

（参照サイト）http://lib.city.kashiwazaki.niigata.jp/siraberu/teisinni/hisseki/hasu.htm